

総合塗料メーカーとして何ができるのかを 常に問い「持続可能な社会」のための 事業活動に取り組んでいきます。

再び創業の原点へ

昨年3月11日に起こった東日本大震災は、被災地のみならず、わが国の社会と経済全体にも深刻な打撃を与えるものでした。当該地域にあった当社の生産・営業拠点は大きな損傷に至らず短期間のうちに平常業務に復帰しましたが、震災が今後の事業活動の見通しに不透明さをもたらしたことは否めません。

その一方で、このたびの震災はすべての企業に「持続可能な社会」に向けてどのような取り組みができるのか、という問いかけをあらためて突きつけるものであったといえます。



当社は1929年に事業活動をスタートさせましたが、その出発点となったのは、当時としては画期的ともいえる防錆塗料「ズボイド」の開発でした。「ズボイド」は重防食塗料分野に革命を起こし、「防食の大日本塗料」の原点となりました。以後、独自の技術を駆使して社会の進歩に貢献する製品を市場に提供することを社業の中心に据え、多彩な製品群を通じて社会の繁栄と発展の実現をめざしてきました。

未曾有の大災害に直面して、当社は一体何ができるかということを手問自答する中で創業の原点を振り返り、その姿勢をより鮮明なものとするのが今ほど求められている時はないと思います。今後も創業の原点を基軸とした事業活動を展開し、「持続可能な社会」の創造に資するような製品開発に取り組んでまいります。

塗料の高付加価値化への取り組み

こうした企業としての姿勢を反映させたものが国内塗料事業における高付加価値化の展開です。

当社はすでにVOC（揮発性有機化合物）を含まない水性塗料「ノボクリーンシリーズ」、重金属フリーによって環境負荷を抑えた「グリーンシリーズ」、高い遮熱効果を発揮する「エコクールシリーズ」など、付加価値の高い製品群を市場に提供してまいりました。そして、新たにラインアップに加わったのが他社に先駆けて開発した厚膜形ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」です。

長期にわたるすぐれた防食性能と耐久性の発揮、美観の維持を基本コンセプトとした「VフロンHB」はVOCの排出量も約30%抑制・低減し、塗料の高付加価値化を実現するものとなりました。その塗装設計が高く評価されたことで、首都の新しいランドマークとして注目を集める「東京スカイツリー」（2012年5月22日開業）に採用され、当社の歴史においてもモニュメント的な製品に

なったといえます。

また、今もっとも急がれる震災復興では「環境対応」と「被災地支援」が重点と位置づけられています。こうした要請をメーカーとして正面から受け止め、復興に寄与する商品やサービスの提供に取り組み、真摯に対応していきたいと考えています。

防食塗料事業のグローバルな展開が可能にするもの

当社が創業以来培ってきた防食技術を生かした事業は海外展開にもつながっています。

相手国の国情、産業構造、インフラ整備の状況を踏まえた海外事業は、中国、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、ベトナム、さらにはメキシコへとアジアを中心に広域に及んでいます。塗装の対象となる分野も高速道路や都市間高速鉄道、橋梁、上下水道、官公庁建築物、超高層ビルなどから産業機械、アルミ建材、カーテンウォール、ダイキャスト製品、自動車部品、プラント建設などさまざまであり、現地での取り組みを加速し、その拡大を図る体制を整えつつあります。

当社の創業技術である防食塗料は建物の構造を支える鉄骨やコンクリートをサビや紫外線から護り、強さと美しさを保持するものです。その事業をグローバルに積極的に展開させることは、インフラ構築物などに高耐久性とエコを両立させた先進の機能性を付与するだけでなく、それぞれの国における社会資本の拡充にも貢献することになります。

環境を見つめた事業活動をさらに広く、深く

新規事業の育成や新たな製品づくりでもキーワードとなるのは「持続可能な社会」の構築であり、それを実現する技術の展開であることはいまでもありません。

例えば塗料の開発技術を生かしたジェットインク事業で

は水系インクの製造と販売を本格化させました。環境への親和性が高く、しかも色の発現に優れている高品質の水系インク組成物を市場に提供することは当社の重要な責務のひとつであると認識しています。

また新たな製品づくりという面では環境対策を重視した水性塗料の開発や従来に比べて塗装の省工程が実現できる商品を開発・提案し、塗装トータルでのVOCの削減、CO₂の削減、さらにはメンテナンスコストを考慮したライフサイクルコスト(LCC)という新しい概念によるコスト低減を図ってゆく所存であります。

2012年2月、当社は塗料業界では初めて株式会社日本政策投資銀行(DBJ)より「環境への配慮に対する取り組みが先進的」であるとして「環境格付」に基づく融資を受けました。これは「環境配慮製品の売上高を拡大」「幅広いステークホルダーに製品の環境情報を開示し、環境に配慮した塗料の普及に努めている」「国内外の生産子会社で環境マネジメントシステムの構築を推進し、グループ全体で環境配慮製品の開発・製造に取り組んでいる」ことが認められたものであります。

環境への負荷を抑える製品、省エネルギーに結びつくような製品の開発は、全社で総力を結集して取り組むべき重要な課題と位置づけております。当社はこの格付取得をひとつのステップとして、これからも環境への負荷を低減できる製品開発に取り組むとともに「持続可能な社会」の創造をめざした事業活動を推進してまいります。

今後ともご支援ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 い わ さ と し じ ろ う
岩浅 壽二郎